

本日のテーマ「本の本」

実施日：2022年11月20日



1 「365日のほん」

辻山良雄／著 2017年 河出書房新社 【019.9】

東京「^{タイトル}title」という本屋さんをしている著者。「本屋は本を紹介することや仕事」とホームページで毎日一冊ずつ本を紹介しています。70ページにもちょうどいいかわいいか94をしている本です。

2 「話虫干」

小路幸也／著 2012年 筑摩書房 【Nシ】

夏目漱石の「ニッポ」を好きなように話を改ざんする虫退治するため「ニッポ」の話の中へ入り込み、現代、子がないない尽くしの生活に悪戦苦闘しつつ、正しいストーリーへ導くことはできるのか？

3 「わたしの名前は「本」

ジョン・アガード／作 ニール・パッカー／画
2017年 フィルムアート社 【020.2】

3年前の読書会「2019年読んで本が一番面白かった本は何ですか？」で、利用者さんに教えてもらった本です。

この本は「本」自身が語る本の歴史の物語です。口伝だったのが、文字が生れて記録されるようになり、デジタル化されるまで、「本」が体験してきた人々の変化が思い出として語られます。

4 「本屋図鑑 だから書店員はやめられない！」

いまがわゆい／著 2022年 廣済堂出版 【024】

書店員のリアルな1日(開店から定時退社)を時系列で描いたコミックエッセイです。書店員の仕事がかたまり具体的に描かれているので、疑似体験がでます。「教えて!! ちえぶくう」のコーナーは、ほぼ〜って勉強しています。

9 * 「戦争日記/鉛筆」本で描いたウクライナのお家族の日々

オリガ・クレベンニク／著 河出書房新社 2022年 【98617】

5 「暗がりて本を読む」

徳永圭子／著 本の雑誌社 2020年 【019.9】

普段は福岡の書店で働いている著者ですが、西日本新聞の「カリスマ書店員の敷オシ本」というコーナーに月1回連載し、また福岡の本のイベント「ブックオカ」にも携わっています。そんなマルチな彼女がお薦めする本、手にとってみられませんか？

6 「書店ガール」1〜7巻

碧野圭／著 2012〜2018年 PHP 研究所 【SNア】

東京、吉祥寺にある書店のアラフォー副店長の理子と元気の部下 亜紀を中心に書店を舞台にしたお仕事小説です。1巻から順番に読んで下さい。最終巻の7巻には、「ブックオカ」が登場します。

7 「本屋がなくなったら、困るじゃないか」

ブックオカ／編 2016年 西日本新聞社 【024.1】

「ブックオカ」というイベントをご存知ですか？2006年に福岡の出版社や書店で働く有志メンバーが立ち上げたブックフェスティバルの名称です。毎年秋の12月をイベント期間とし、けや玉通りでの古本市や人気作家を招いてトークショーをしたり、書店で文庫フェアをしています。

8 「おまめの豆本づくり」

柴田尚美／著 2007年 白泉社 【022.8】

・ハサミ、・カッターナイフ、でんぷんのり、ホシ、
・定規、ふで、カッターマット。
特別な道具をそろえなくても、だいたいい記があれば本はつくれます。実際つくってみました。ニニに展示してお見せできればいいのが残念です。

*6Pは、読書会で紹介してもらった本です。

